

熊本県日奈久地域の中生界

山口 琢磨¹⁾・嶋野 壽美²⁾・下川 幸恵³⁾

1. はじめに

平成15年5月10日(土)、表記の巡検会が行われた。今回の目的は日奈久地域に分布する下部白亜系の堆積構造の観察および三畳紀二枚貝化石採集である。参加人数は19名で5台の車に分乗し、朝8時30分に熊大前を出発した。

2. 巡検地解説

Stop. 1 鳩山 (Bouma sequence の観察)

ブーマ・シーケンスとはタービタイト単層中に認められる内部堆積構造の規則的な積み重なりを言う。構造要素がすべて揃っている単層(完全シーケンス)では、下位から級化部、下部平行葉理部、カレントリップル葉理部、上部平行葉理部、泥岩部の順序で累重する。

鳩山で観察されるタービタイト堆積物は、逆転構造をなしている。なぜなら、級化部の砂岩堆積物の粒径は通常上部に向かって細粒化する傾向があるが、この地域は反対で上部に向かって粗粒になっているからである。

また、ここでは泥岩が砂岩によってこすり削られた跡であるグループキャストや、砂層の一部が泥層中に沈みこんでできる荷重痕(ロードキャスト)なども観察できる。

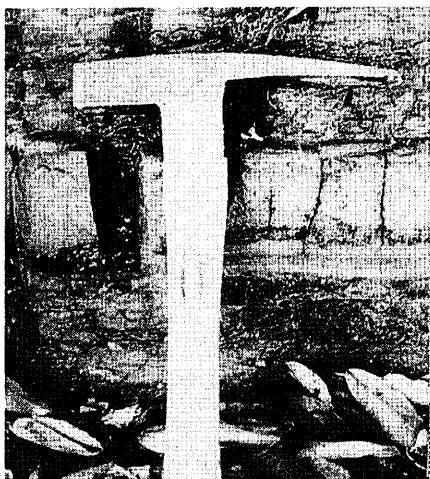


写真1 日奈久海岸鳩山で観察されるブーマシーケンス

Stop. 2 波多島 (土石流堆積物の観察)

波多島で観察される礫岩層は、従来、日奈久の基底礫岩と考えられていたが、現在は、日奈久層中に挟まれた土石流堆積物といわれている。土石流堆積物は、下部から、細礫、大礫、細礫、砂の順で堆積する。一般的には、重いものが下になるので大きな礫が下部に堆積すると考えがちであるが、土石流堆積物では、下部の細礫の粘着力が強く、それによってサポートされ、大きな礫が浮いた状態で運搬されてくる。よって、細礫の上に大礫が堆積することになる。

また、礫種や礫径、マトリックスを詳しく調べることにより、後背地の地質情報が得られる。さらに、ここでは、礫の傾き(インプリケーション)によって水流の方向が判る露頭や、未固結の砂岩泥岩互層がたわんでできたスランプ褶曲なども観察できる。

stop. 3 小田浦 (三畳紀化石採集)

肥後田浦駅から南西1.25km地点の線路北側の茂みの中で、化石採集を行った。この化石採集地は、三畳紀二枚貝化石が採取できる場所であるが、今回の巡検では三畳紀の示準化石である Halobia, Oxtoma や Ammonite なども採取することができた。

3. おわりに

今回の巡検は、講義などによる知識だけではなく、実際に露頭でブーマシーケンスや土石流堆積物を観察したり、化石採集を行うことによって、より深く自然を理解することができた。

最後に、終始丁寧な説明をしていただいた田中均先生に深く感謝の意を表し、巡検会報告とする。

発行所

熊本地学会誌	No. 133
熊本市黒髪2丁目	熊本大学教育学部
地学研究室内	熊本地学会
TEL 096-344-2111	振替01960-2-5359

1) 熊大教育学部。